

性暴力ワンストップセンターの活動と、医療等との連携に関する調査

令和4年度厚生労働科学研究費補助金(健やか次世代育成総合研究事業)「DV・性暴力被害者の医療と連携した支援体制の構築のための研究」(22DA0201)研究班 研究代表者 河野美江(島根大学)

調査ご協力をお願い

私たちは、厚労省科研費を得て、性暴力やDVの被害者支援に、医療等の専門家による支援がどのように連携でき、有効な支援や治療が提供できるのかについての研究調査を行っております。日本において、性暴力の本格的な被害者支援はまだ始まったばかりであり、たくさん課題があると思われます。そこで、このたび、本調査プロジェクトの一部として、全国各地域の性暴力ワンストップセンターの皆様アンケート調査等を実施し、支援の実情と、専門家との連携についての状況の把握を目指すことにしました。性暴力ワンストップセンターの皆様には、大変面倒なアンケートをお願いし恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、どうかご協力をお願いいたします。

この調査は、島根大学医学部医学研究倫理委員会で承認を受け、研究機関の長の許可を得て実施しています。

- 回答は、統計的に処理され、合計値、数値、%値などで公表されます。特定の機関・団体の情報が公表されることはありません。都道府県・センター名・担当者名などをお書きいただいた場合でも、その情報は研究においては削除した上で取り扱われます。
- 回答いただいたデータは、厳重に管理し、調査担当者以外の者が読むことはありません。
- 回答できる部分だけを記入し、回答できない設問は記入されなくてけっこうです。
- 回答は任意であり、アンケートに回答しないことによって不利益を受けることはありません。本アンケートの最後の部分で機関名などを書いてくださることを選ばれる場合を除き、記名・機関名記入の必要はありません。その場合、回答後の撤回はできません。

機関名等をご記入いただいた場合は、解析や結果の公表の前の段階に撤回の申し出があれば、データを破棄します。撤回されても回答者の方やセンターが不利益を受けることはありません。ただし、解析・結果公表後には対応できない場合がありますことをご理解ください。

以上の趣旨をご理解いただき、回答にご協力いただける機関では、下記□にチェックを入れるか、オンライン回答の画面でチェック(✓)を入れて、回答に進んでください。

調査の趣旨や回答情報の取り扱い方針を理解し、回答することに同意します。□ (同意される場合、✓を入れてください。↑) 当機関の責任者の了承も得ました□ (←了承を得ている場合、✓を入れてください。)

※オンラインでの記入、または質問紙への記入し同封の返信用封筒で返送のどちらかを選んでご回答下さい。

回答は1機関1つで、オンラインと郵便で重複して回答されませんように
お願いします。 こちらの URL、または QR コードから



<https://jp.surveymonkey.com/r/JWVV6CV>

調査回答〆切 1月 20日まで

相談ケース数の統計などで、このアンケートとは異なる区分でしか回答できない場合は、その旨お書きいただき、貴センターで出せる形の統計でけっこうですので、お知らせいただければ幸いです。ご不明な点がありましたら、ご遠慮なくご質問下さい。

本アンケート調査の責任者 北仲千里(広島大学)

kitanaka@hiroshima-u.ac.jp

電話/FAX 082-424-4352

I 貴ワンストップセンターについて うかがいます。

Q1 地域 (どれか1つに○)

1. 北海道・東北
2. 甲信越(新潟・山梨・長野)・関東(茨城・栃木・群馬)
3. 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
4. 東海北陸(富山・石川・福井・岐阜・愛知・静岡・三重)
5. 近畿
6. 中国・四国
7. 九州・沖縄

Q2 設置主体 (どれか1つに○)

1. 都道府県
2. 市町村
3. 民間団体
4. 病院が独自に設置
5. その他 ()

Q3 運営形態 (どれか1つに○)

1. 自治体直営(単独)
2. 自治体直営(婦人相談所に併設)
3. 自治体直営(その他)
4. 自治体が犯罪被害者センターに委託

資料5. D票

5. 自治体が上記以外の民間団体に委託
6. 民間団体や病院が運営し、一部自治体から財政支援
7. 民間団体や病院が独自で運営
8. その他 ()

Q4 年間予算規模 (どれか1つに○)

(※ 他の事業もやっている場合は、なるべく性暴カワストップセンターの業務にかかわる予算だけについて、お答えください。)

1. 200万円以下
2. 200万円～500万円
3. 500万～800万円
4. 800万～1000万円
5. 1000万～2000万円
6. 2000万円～3000万円
7. 3000万円～5000万円
8. 5000万円～8000万円
9. 8000万円～1億円
10. 1億円以上

Q5 性暴カワストップセンターの運営財源 (どれか1つに○)

1. ほぼ100%近くが自治体からの委託費
2. 一部が自治体からの委託費や活動助成金
3. 委託費や活動助成金は3割以下で残りは自主財源
4. ほとんどが自主的な財源で運営
5. その他 ()

Q6 主な活動の場所 (どれか1つに○)

1. 病院拠点
2. 事務所拠点
3. 機関連携で独自の拠点無し
4. その他 ()

Q7 事務所・拠点数 (常時面談などで利用できる場所) (どれか1つに○)

1. 1カ所

資料5. D票

2. 2カ所
3. 3カ所以上
4. 自前の事務所／病院の拠点は1つだが、ふだん使用できる連携施設／病院などはある
5. その他 ()

Q8 スタッフの数について教えてください

登録している支援員 総数	人
うち、有償スタッフ数	人
うち、常勤スタッフ数	人

事務局専従スタッフは 有り・無し (どちらかに○)

II 支援活動についてお聞きします。

相談対応の実績についてお聞きします。

(2021年4月から2022年3月の期間でお答えください)

Q9 対応回数 (電話・メール相談なども含めて、のべ対応件数で記入して下さい)

2021年4月～2022年3月の期間で

1. 面談以外の相談対応 (電話、メールなど) () 回
2. 面談や同行など、直接の相談対応 () 回
3. 合計 () 回

*「3. 合計」のみの記入でもけっこうです。

*もし、その期間の件数が答えにくい場合は、答えやすい期間で半年間の数字を記入し、

○年○月～○月と書いておいて下さい。

Q10 対応ケース数 2021年4月～2022年3月(令和3年度)の期間で

*1年ではなく、半年間や3ヶ月間などを記入する方がよい場合は、それでもけっこうです。

(その旨「年 月～ 月まで」と書いて下さい)

以降は面談まで行ったもののみの、「ケース」数 (つまり、たいていのケースでは人の数と同じ) で記入して下さい。

例えばAさんという方に何度も面談し同行や診察しても、1ケースとして数えて下さい。

*もし、その期間の件数が答えにくい場合は、答えやすい期間で半年間の数字を記入し、○年○月～○月と書いてお

資料5. D票

いて下さい。

(1) 性別 (面接までおこなったケース)

- | | | |
|---------------------------|---|----|
| 1. 女性 | (| 人) |
| 2. 男性 | (| 人) |
| 3. トランスジェンダーや DSD、ノンバイナリー | (| 人) |
| 4. 男女混ざっている複数人での相談 | (| 件) |
| 5. その他・不明 | (| 人) |

(2) 年齢 (面接までおこなったケース) * 2021年4月～3月の当時の年齢

- | | | |
|------------|---|----|
| 1. 10歳以下 | (| 人) |
| 2. 11歳～18歳 | (| 人) |
| 3. 18歳～29歳 | (| 人) |
| 4. 30歳～49歳 | (| 人) |
| 5. 50歳以上 | (| 人) |
| 6. 不明・その他 | (| 件) |

* 正確な年齢がわからないけれどおおよそわかる場合は、おおよその判断で数に入れて下さい。

まったくわからない場合は「不明」に入れて下さい。

複数人で1ケースの場合は、その中の若い方の年齢で書いて下さい。

* 本人ではなく、家族などと面談した場合でも、被害者本人の年齢で書いてください。

(3) 被害内容の種類別のケース数 (面接までおこなったケース)

* 本人以外からの家族などと面談した場合でも、被害者本人の性暴力被害の内容で書いてください。

* 重複するカテゴリーの場合は、どちらのケースにも重複して数に入れてください。(例 夫婦間のレイプは1と4, 学校で生徒の盗撮画像がみんなに流されたようなケースは、3と6両方にカウントしてもいいですし、特に「主訴」としてセンターで記録している分類だけをもとに記入していただいてもかまいません。)

- | | | |
|--|---|----|
| 1. 性行為の強制 (口腔、肛門性交含む) | (| 件) |
| 2. 強制わいせつにあたるような、性暴力行為 | (| 件) |
| 3. 身体的な性暴力以外の性暴力 (盗撮、デジタル性被害、ストーキング、性器露出等) | (| 件) |
| 4. 夫婦や交際相手の間での束縛、支配—従属、虐待 | (| 件) |
| 5. 親族などによる子どもへの (子ども時代の) 性虐待 | (| 件) |
| 6. 教師やスポーツ・文化活動の指導者、宗教者などの大人から子どもへの性暴力 | (| 件) |
| 7. 学校 (子ども同士) や職場などでの噂、からかい、性的いじめ | (| 件) |

資料5. D票

8. 性暴力ではない被害相談 () 件)
9. その他・不明など () 件)

(4) 支援内容 (2021年4月～2022年3月の期間で面接までおこなったケースのうち、
おおよそ その期間に行った支援)

1. 警察相談・届け出・検察同行 () 件)
2. 児童の司法面接 () 件)
3. 警察・検察以外の司法支援(弁護士相談、裁判傍聴ほか) () 件)
4. 医療支援(医療機関の紹介や同行、料金財政支援など) () 件)
5. 心理支援(自助グループ含む) () 件)
6. 社会福祉・就労修学環境支援 () 件)
7. 児童相談所、DVセンター、婦人相談所への通告や紹介など () 件)
8. そのほかの場所への同行支援 () 件)
9. その他、行った支援 () 件)
(具体的に)

* 上記期間内に相談を受け付けたけれど、警察相談などの支援はもともとずっと後の時期(例えば1年後)になったような場合は件数に入れないでください。

(5) 上記期間内で、子ども(15歳まで)の被害者のケースで、医療機関での対応をしたケースはありますか。(1つだけ○)

1. ある
2. ない → 次ページ Q11へ 進んでください
3. その他 ()

SQ1. 「1. ある」と回答された場合、対応した医師の診療科は (あてはまるものすべてに○)

1. 小児科 2. 産婦人科 3. 泌尿器科 4. 内科 5. 外科・肛門科
6. 整形外科 7. 精神科・児童精神科・心療内科
8. その他 ()

SQ2. 「1. ある」と回答された場合、(あてはまるものすべてに○)

1. 急性期(1週間以内)の診察や証拠資料採取
2. 1週間以上は経っているが、証拠資料採取も念頭においた診察・検査
3. 上記以外の診察・治療

Q11 貴センターの支援対象についておききます。

面談以降の専門支援を行う対象の相談者の範囲についておおよそ決めている方針があれば「欄 A」にお答えください（当てはまるものすべてに○）。「欄 B」には 2021年4月～2022年3月の期間に実際に行った実績があるものに○をして下さい。

2021年10月～2022年4月の期間

↓

	A 支援する方針になっている	B 期間内で支援対応実績あり
1. 既に自分で警察に相談に行った後のケース		
2. 警察に行くかどうか決めていないケース		
3. 警察には相談するつもりはないケース		
4. 夫婦間の性暴力ケース		
5. 交際相手からの性暴力や妊娠（デートDVなど）		
6. 児童性虐待（親子やきょうだい、親族など）		
7. 児童どうしの性暴力		
8. 職場でのセクシュアル・ハラスメント		
9. ストーカー		
10. ネットやスマホを使った攻撃、画像の送信など		
11. 盗撮、性的言動（からかいなど）		
12. 10年以上前に起きたケース		
13. セックスワーカー等の業務中の性暴力		
14. いわゆる「援助交際」、「パパ活」などでの性暴力		
15. 特に「範囲」の方針は決めていない		

Q12 活動を始めてから今までの間で、

夫婦間の性的DVのケースを扱ったことはありますか。（どれか1つに○）

ある（ 1. 電話相談のみ 2. 面談やそれ以外の支援も実施） 3. ない

Q13 (1) 活動を始めてから今までの間で、中絶のケースを扱ったことはありますか（1つに○）

ある（ 1. 電話相談のみ 2. 面談やそれ以外の支援も実施）

3. ない → **Q14へ進んでください**

SQ (2) 中絶ケースの支援実績があるセンターにおきします。

同意書（相手の男性や、未成年の場合の親など）の問題で困難はありましたか。

(どれか1つに○)

1. ある
ある場合、具体的に ()
2. ない・わからない

Q14 活動を始めてから今までの間で、

男性やトランスジェンダーの方の性被害のケースを扱ったことはありますか。

(どれか1つに○)

- ある (1. 電話相談のみ 2. 面談やそれ以外の支援も実施)
3. ない → **Q15 に進んでください。**

SQ1 「ある 2. 面談等の支援も実施」と答えた団体にお伺いします。

どのような被害に対し、どのような支援をされましたか。差し支えない範囲でお答え下さい。

SQ2 男性やトランスジェンダーの方の性被害のケースを扱ったことがある団体にお聞きします。

1. 医療的支援の面で、何か課題と感ずることはあったらお書き下さい。

2. その他の点で、何か課題と感ずることがあったらお書き下さい。

Ⅲ 公費負担などについて

Q15 (1)公費負担によって、治療・検査その他が無料や安く受けられる支援をおこなっていますか

1. 行っている 2. 行っていない → **Q17 へ進んで下さい。**

Q16 (2) 「行っている」場合、その公費負担者の種類は主になんですか (○は1つだけ)

1. 警察による公費負担の範囲のみ
2. 警察による公費負担が多く、自治体（や内閣府）による公費負担はたまに利用
3. 警察による公費負担 と 自治体（や内閣府）による公費負担の両方を利用
4. 自治体（や内閣府）による公費負担が中心で、警察の公費負担はあまり使わない
5. センター（病院など）独自財源による経費負担のみ

資料5. D票

6. センター（病院など）独自財源と公費との両方を利用
7. その他（ ）

Q16 (3) 自治体（や内閣府）による公費負担を利用している場合、適用にあたって、どのようなルールがありますか。

(3) -1 医療費（緊急避妊薬や妊娠、性感染症検査 レイプドラッグ検査、性暴力診察）について（複数回答 当てはまるものすべてに○）

1. 性暴力被害者であれば、特に条件はなく全額負担
2. 都道府県民・在学在勤・その地域で被害を受けたなどの限定がある
3. 警察に被害届を出す人だけ、などの限定がある
4. 刑法の犯罪に該当する場合だけ、などの限定がある
5. 上限額の設定がある（具体的に ）
6. 生活保護を受けている人は適用しないなどのルールがある
7. 被害者の実名を書いて書類を提出することが必須とされる
8. その他（ ）

Q16 (3) -2 中絶費用について（当てはまるものすべてに○）

1. 性暴力被害者であれば、特に条件はなく全額負担
2. 都道府県民・在学在勤・その地域で被害を受けたなどの限定がある
3. 警察に被害届を出す人だけ、などの限定がある
4. 刑法の犯罪に該当する場合だけ、などの限定がある
5. 上限額の設定がある（ ）
6. 生活保護を受けている人は適用しないなどのルールがある
7. 被害者の実名を書いて書類を提出することが必須とされる
8. ワンストップセンターで緊急避妊をしても妊娠したときだけ適用
9. その他条件あり（初期・中期中絶による条件の違いなど）
（具体的に ）

Q16 (3) -3 薬の処方などについて 検査だけではなく、薬を処方するなどの行為も公費負担の対象になりますか。（例 感染症の治療）（どれか1つに○）

1. なる * → SQへ
2. ならない
3. わからない・その他（ ）

⇒*SQ（「なる」場合すでに病歴のある方とかに対しては何か基準はありますか）
（ ）

Q16(3)-4 産婦人科や肛門・泌尿器科以外の検査や診察でも公費負担になりますか

	なる	ならない
内科の診察や治療	1	2
精神科・診療内科の診察や治療	1	2
外科・整形外科の診察や治療	1	2
その他の診療科	1	2

自由記述 ()

Q16 (3) -5 心理カウンセリングに対しても公費負担はありますか。

1. ある *SQへ
2. ない
3. その他 ()

* SQ「1. ある」場合 金額や回数、対象など、何か決まりはありますか。
()

Q16 (3) -6 弁護士相談や弁護士への委任などについての費用に、何か財政支援はありますか。

(複数回答：当てはまるものすべて○)

1. 自治体（や内閣府）による公費負担 → *SQへ
2. 自治体や国以外のところからの財政支援
3. センター独自の財政支援
4. 法テラスや日弁連の制度を紹介するだけ
5. その他 ()
6. ない

* SQ「1. 自治体の公費負担がある」場合
金額や回数、対象など、何か決まりはありますか。
()

Q16 (3) -7 この他に費用負担（補助）をしているものはありますか。

例 転居費や中絶後の埋葬費、旅費など

1. ある *→SQへ
2. ない

*SQ1「ある」場合

具体的に

()

*SQ2 それは、公費負担（補助） それとも センター独自で費用負担のどちらですか。

()

IV 各機関・支援者との連携について

Q17 (1) 医療との連携について

地域の医療機関や医師、医療専門職らとの支援の上でのつながりがありますか。（どれか1つに○）

1. はっきりとはない
2. 主に1, 2の医師や医院などの支援協力体制ができている
3. 3か所～5か所の医師や医院との支援協力体制ができている
4. 5か所以上の医師や医院との支援協力体制ができている
5. 病院拠点型であり、1病院内のスタッフですべて対応している
6. 病院拠点型であり、1病院内のスタッフに加えてそれ以外の医院等とも支援協力体制ができている
7. その他 ()

Q17 (2) 地域の医師会、助産師会などの医療職の地域組織との連携などがありますか。

（どれか1つに○）

1. ある
2. ない
3. その他 ()

Q17 (3) これまでの活動で、深夜・夜間帯に性暴力被害者への医療支援が必要になったことはありますか。（どれか1つに○）

1. ある
2. ない
3. その他 ()

Q17 (4) これまでの活動で、土日祝日に性暴力被害者への医療支援が必要になったことはありますか。（どれか1つに○）

1. ある
2. ない

3. その他 ()

Q17 (5) 深夜・夜間帯、土日祝日の医療支援で、困ったことはありますか。(どれか1つに○)

1. ある
2. ない
3. その他 ()

Q17 (6) 貴センターの運営やケース対応に対して、日常にかかわり、支援員と一緒に議論したり、助言や関係者につなぐなどのかかわりができる専門家はいますか。

1. いる (a. 医師、 b. 弁護士 c. 心理職 d. 司法書士・社労士・税理士
e. その他の専門家) (← 当てはまるものすべてに○)
2. いない
3. その他 ()

V 証拠採取・保管について

Q18 貴センターでは、警察に被害届や相談をしない段階で、センターの方で証拠資料採取や保管を実施していますか。(どちらか1つに○)

1. している
2. していない

また、このことについて何か共有したい現状などありましたらお書き下さい。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

もし、できましたら、都道府県、センター名をお書き下さい。書きたくない場合はけっこうです。

都道府県 () センター名等 ()

インタビューにご協力いただけますか。協力してもいいというところは、

ご担当者名や、連絡先をご記入下さい。

連絡先 (メールや電話など) ()

ご担当者名 ()